

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700546		
法人名	有限会社 ベルヴィ		
事業所名	やすらぎホーム金光 (2階ユニット)		
所在地	岡山県浅口市金光町地頭下400番地		
自己評価作成日	平成25年 3月16日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・研修に積極的に参加し、新たな知識や技術の習得に努めている。 ・個人の思いを尊重出来る 個別ケアを目指している。 ・同じグループ内の施設への訪問。交流を図り、外出の機会を増やしている。 ・情報の公表という点に於いて、今年度より運営推進会議の報告書を家族様にも送付させて頂いている。 ・前年度の目標であった、新しいアセスメント用紙を作成し、活用し始める事が出来た。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3372700546-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成25年3月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの理念を日々の業務の中で認識・共有すると共に、職員はそれぞれ得手・不得手な分野を互いに協力しながら、役割分担が自然と出来ている。自分の楽しい、やりがいがある部分で頑張れるというメリットがあり、一人ひとりが持つ能力を存分に発揮出来、それがこのホームのファミリー的な温かい雰囲気醸成している。今年度の目標達成計画に挙げた「ホーム内での研修の充実を図る」ことへの実践は、現任職員のスキルアップを図ると共に、新人研修にも力を入れており、研修計画を立て、細やかな指導をしている。また、2Fのユニットの利用者は1Fユニットに比べ、中軽度でアクティブな人が多く、気軽に1Fフロアに降りて行き、職員も利用者も合同で、イベントや行事をする事が多く、団結力が強い。1F・2Fの交流が多い事は、利用者にとっても楽しみが増え、喜ばれている。10年目を歩んでいるホームはまだまだ、進化している途中であり、今後が楽しみである。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルーム内と管理日誌に綴り、申し送り時に全員で唱和。1日の始まりに気合いを入れている。	理念「辛抱強く、やさしい眼差しと、観察力を持つ」を掲示し、各ユニット毎に独自の目標も半年毎に立てている。ユニットの特色を出し、連帯感を持つと共に、夜勤者との申し送り時、理念を毎日唱和し、職員間で共有している。	各ユニットの目標は具体的に評価しやすいものにし、例えば、2階の利用者の中にはアクティブな人も多いので、言える人には目標を聞いて、それをユニットの目標にしてみても良い。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣施設との情報交換や、地区の夏祭り・選挙の投票に参加するなど、可能な限り交流を図っている。	各種選挙に有権者として投票に行き、国民の義務を果たしたり、馴染みの酒店やJA農協に職員と買い物に行き、そこで出会った知人と話をし交流をしている。また、児童クラブとの交流会、秋祭り等の地域イベントに参加する等、着実に地域とのつながりを支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	浅口市の認知症サポートに情報を提供し、活用して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催。入居状況と活動の報告、ヒヤリ・ハットへの取り組み・成果についても報告を行い、アドバイスを頂いた事を今後活かしている。	浅口市高齢支援課課長、民生委員、地域住民代表、会社側の役員等の参加があり、定期的に開催している。運営推進会議では情報交換、話し合い等をし、運営に関するアドバイスはサービス向上に活かす努力をしている。	運営推進会議の6回のうち1～2回でも利用者が参加できる状態の会議を工夫し、その人に合わせた問いかけをし、声を聴く等して、意見や要望を反映させてみるのも面白い。家族の参加も頑張ってもらいたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告書を作成し、高齢者支援課に配布。課長にも毎回出席して頂いている。毎月定期的に、福祉課・生活保護課にも訪問を行っている。	行政の担当者は地域福祉に熱心で、常に目を向けてくれており、毎回、運営推進会議にも参加がある。日頃から、助言、指導をもらう機会も多く、定期的に連携を取る等、協力関係が構築できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在は行っていない。また必要となった時には、御家族同意の下 拘束時の記録を残すよう徹底している。	玄関や居室の施錠はしていない。現在、禁止の対象となるような身体的な行為はなく、利用者の抑圧感を招くことがないように、職員間でよく話し合い、安全面に配慮しながら、自由な暮らし方を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日々状態観察の徹底を行っており、些細な事でも異常を発見した際には ヒヤリ・ハット報告書に記入。スタッフ間で原因を突き止め再発の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	御家族のいない生活保護受給者の方について、市民後見人制度を活用させて頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・契約書・リスク説明同意書など、管理者が御家族や本人に説明。納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来年度の行事を継続的に行うかどうか、御家族にアンケートを送り決定する事が出来た。玄関に意見箱を設置しており、要望を出しやすくしている。	3ヶ月毎に、写真が満載の「やまぼうし通信」を発刊しており、家族への個別の便りと一緒に届くので、ホームでの生活がよくわかり、家族も安心と共に、情報も得られている。また、家族の来訪時やホームでのイベント参加時等には随時、会話をする機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月20日にスタッフ会議を実施。前半は1階・2階合同で行い、より多くの意見や提案が聞けるような環境を作っている。	日頃から気軽に職員間で話し合える空気があり、「リフレッシュ休暇が欲しい」という要望も出る等、思っている事が言いやすいファミリー的な環境である。職員の意見は会社側に伝え、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月第1火曜日に 代表者と各管理者が集まる全体会議を実施。各ユニットの活動・勤務状況を報告。毎月20日のスタッフ会議前に、各ユニットの管理者とリーダーが集まり意見交換を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回全職員の考課表を実施。自己の見つめ直しを行っている。 浅口市社協主催の研修などに、全職員可能な限り参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加時やその後も定期的に連絡を取り合い、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族から自宅での様子・生活暦を伺い、本人とのコミュニケーションを密にしながら距離を縮め、思いを汲み取るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の1ヶ月は 状況報告を密にさせて頂き、疑問点があれば御家族より情報を得、同時に要望等も伺いながら ケアの次へのステップへと進んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と御家族より希望を聞いた後、スタッフ間でカンファレンスを実施。支援方法について検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の作業を分担し、役割を持って頂く事でQOLの向上を図りながら、お互いの距離を縮めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事参加時に近況を報告。3ヶ月ごとに 各担当者より手紙を送らせて頂いている。 状態に変化がある場合は、随時連絡を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族・親戚からの手紙や電話対応の支援。知人・友人などの面会への付き添いの支援を行っている。	馴染みの理髪店の人がホームに来て散髪したり、家族や職員と一緒に美容院へ出掛ける人や、お盆の墓参りに家族と行く等、一人ひとりの生活習慣を尊重している。退去した人への訪問や入院している人への面会は職員と出掛ける等、関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話の仲介にスタッフが入り、孤立させずトラブルが発生した場合には即対応出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後に手紙を送らせて頂いたり、可能であれば面会に行かせて頂くよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、なるべく馴染みの物を持参して頂き(仏壇・写真・仏像など)、コミュニケーションをとる際に思いを聞きだすのに活用させて頂いている。	「外出をしたい」と希望する人には、職員同伴で買い物や散歩によく出かける。「あ～外に出て嬉しい」「また連れて行って下さい」と満面の笑みで喜ばれる。意思表示の難しい人には、表情やつぶやき等から汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者台帳に生活暦等を記入し、スタッフ全員が情報を共有出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付いた点があれば、必ず記録に残している。異常が見られる場合は 看護師への連絡ノートに記入。同時にカンファレンスを開き、早急に対策を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族の思いを尊重し、カンファレンスにて意見・アイデアを出し合っている。	利用者のやりたい事、して欲しい事等を具体的(何をどうするか)に生活援助計画に挙げ、アセスメントをもとに作成している。半年に1回、ケアプランの見直しをし、本人・家族の意向や要望を反映するよう、職員間で話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録を、関わったスタッフは細かく記入するよう努めている。会話の内容や どの様な対応を行ったかも記入し、これから得られた情報を介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	目標に向かい取り組んではいるが、地域資源などをもっと活用し、成果を上げていく必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや、地域行事への参加など、可能な限り支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と密に連絡・相談を行い、協力を得ている。受診困難な入居者については、2週間に1回の往診訪問と 異常がある際に随時対応して頂いている。	かかりつけ医とは、日頃から連携を密にし、良い協力関係である。緊急時や家族の受診支援が困難な場合は、職員が対応しているが、職員にとっても一対一の楽しい時間となっている。現在は、受診困難な人が1名、往診に来てもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常を発見した際、些細な事でも常に報告・相談を行い、指示を仰いでいる。経過を看護ノートに残し、適切な受診が受けられるよう連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、必要物品の提供をホームから行うなどして 定期的に訪問。その際の状況や情報を、経過記録に残している。また日頃より情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医の協力体制が整っている。必要になれば、状況に応じて対応して下さっている。	ホームでの看取りは、これまで1名経験した。最期は入院する人が多いが、今後の方針として、職員に看護師もいるので、会社とも相談しながら、家族からの要望に合わせ支援していく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師と介護技術向上委員が中心となり、定期的に勉強会を行っている。また、研修等への参加も可能な限り行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回 立会いによる避難訓練を実施。毎回想定を変え、どんな状況でも対応出来るように体制作りを行っている。近隣の施設との合同の訓練も、今後検討している。	緊急通報装置を使って、夜間帯と昼間を想定して消防署の立会いのもと、2回、避難訓練を実施した。浅口市の津波マップでは、この地域も被災範囲に入っているため、近くの小高い丘の墓周辺が避難場所になっている等の情報をもとに、今後、検討していく予定である。	ホームの話では、墓周辺は道幅が狭いとのことなので、車で安全区域まで避難出来るか試走してみるとか、車椅子での移動はどうか等、訓練に合わせシュミレーションしてみるのはどうだろうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別の対応を徹底しており、本人が希望される場合は、御家族同意の上「～ちゃん」「お母さん」など呼ばせて頂いている。	利用者の意思を尊重し、「こう呼んで欲しい」と思う名前の呼び方をしている。親しみが増したり、家族的な雰囲気、相乗効果もある。「字が書けるじゃろうか？」心配で興奮気味のAさんが知事選の投票に満足する等、それぞれの気持ちに寄り添う支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	掃除・洗濯畳み・食器洗い・床掃きなど希望があれば、スタッフと一緒に頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の行事は決めているが、無理強いせず希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用。馴染みの美容院に御家族と行かれる方もいる。希望があれば、クリーム等を各担当者が準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望があれば、準備から片付けまで一緒に行っている。自然に各入居者の役割分担が出来ている。	利用者の希望に添った献立を月1回実施したり、行事ではホットプレートで焼肉をする等、楽しい企画がある。また、配膳のお手伝いや茶碗拭き、おぼん拭きと役割分担もあり、その人の出来る事をしてもらっている。職員は一緒のテーブルで利用者と話をしながら、楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や形態など個別に対応している。食事と水分の摂取量を毎回チェックし、調整を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 個別に口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して 個別にトイレ誘導。排泄パターンを知ることで、使用製品の見直しを行っている。 可能な限り トイレでの排泄を行っている。	トイレ誘導時のきめ細かい声掛け、特に忘れがちな言葉「手すり持って」等、丁寧な介護を心がけている。基本的には、トイレでの排泄を促し、排泄量、回数等も一人ひとり把握し、適宜声掛け誘導しながら、紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排便状況を把握し、定期的な水分補給・腹部のマッサージや食事の工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日実施しており、本人の希望を聞いた上で対応・調整を行っている。 拒否の強い方に関しては、気が向いた時にいつでも入浴可能な状態で対応している。	週3回を目安に1日3～4人づつ入浴介助している。入浴拒否の強い人には、無理強いせず、本人の意思を尊重しながら、言葉かけや楽しい雰囲気づくりを心がけ、タイミングを図りながら、入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別に対応。 安静臥床が必要な方と、日常を活性化する事で安眠に繋がる方。御自宅での生活パターンを変える事なく継続されている方など、それぞれで支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・用量は、個人ファイルにファイリングしている。変更時には、申し送り・看護ノート・連絡ノート・経過記録に記入。確認の徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎食後の片付け・テーブル拭き・床掃除など、役割分担し行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	同じグループ内の施設への訪問や、御家族との外食・買い物・美容院に行くなど、御家族や地域の方の協力を得ながら支援に努めている。	秋に日帰り遠足で倉敷の美観地区へ行ったり、近くのホームセンターへは職員と希望者で買い物に行っている。ホーム周辺の散歩は日常的に支援しており、途中で出会った友人や幼馴染みと立ち話をする楽しみもある。家族と外食や美容院等へ出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時、入居者を同伴。商品を選んで頂き、支払いに関しては混乱が生じないようにスタッフが介入。本人で管理が可能な方については、出納帳に記入し、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、その都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、自然採光・自然の風を取り入れて、季節を感じて頂いている。毎月第3日曜日に茶話会を実施。手作りのお菓子などを提供し、喫茶店の雰囲気味わって頂いている。	リビングルームでは餅つきがあり、杵と臼が準備され、利用者達も代わる代わる職員と一緒に杵で餅をついた。1・2階の利用者が輪になり、「よいしょ！よいしょ！」と声をかける。傍にはお雛様も飾ってあり、菜の花、杏の花、梅の花、ひなあられ、と季節感が漂い、外のウッドデッキからは春の陽光が差し込んでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望に合った場所が提供できるよう、その都度椅子の配置を替えたり模様替えを行っている。個別に適度な距離を保ち支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や写真・馴染みの物等、可能な限り取り入れている。	居室の壁のホワイトボードに家族からのメッセージが書いてあったり、家族、孫、ひ孫の写真が飾られ、カレンダーには訪問日等が記されていた。ベッドには家族からプレゼントされたぬいぐるみが置かれ、居心地の良い明るい部屋であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中で、スタッフが常に見守り自由に移動して自立生活が送れるように努めている。		